

RALLY GUIDE 1



ラリー北海道大会組織委員会

この書類は案内書として作成されており、規則的な効力はありません。特別規則書、公式通知にて規定された場合はそちらに従ってください。規則については、FIA国際モータースポーツ競技規則(FIA International Sporting Code)、FIA地域ラリー選手権規則(FIA Regional Rally Sporting Regulations)、JAF国内競技規則(JAF National Sporting Regulations)、ラリー北海道の特別規則書および公式通知に従ってください。

警告

選手、チーム、メディア、及び関係者全ては2014年FIA地域ラリー選手権規定に従って日本の交通法規を遵守しなければなりません。法令遵守の原則に則り、大会主催者は以下について警告します。

- 「2014年FIA地域ラリー選手権規定20条」及び「JAFスペシャルステージラリー開催規定第31条」に則り、交通違反者に対しては厳格に罰則を適用します。
- 違反者の来年以降のエントリーを受け付けない場合があります。
- 大会期間中、交通違反が発生した場合、大会の継続や今後の開催に重大な影響を与える可能性があります。

以上

海外からお越しになる方へ

日本には国際基準とは異なる交通規則が存在します。しかしそれらは厳密に遵守されなくてはなりません。特に下記には注意してください。

全体的に道路標識は国際基準と合致していますが、「止まれ」のサインだけは異なります。形状は逆三角形です（海外の「Give Way」標識に似ています）。

すべての車両は踏み切りで必ず停止しなくてはならず、通過する前に電車が来ていないことを確認しなければなりません。

特に標識で規制されていない場合は、町の中心部は時速40km以内で、その他の地域は時速60km以内で走行しなくてはなりません。高速道路の最高速度は、状況にもよりますが、時速70kmです。

また、海外からお越しになる方は、一般道を運転するのに日本で有効な免許証、および国際免許証について理解してなくてはなりません。国際免許証は「1949年ジュネーブ交通条約」下で発行されたものでなければならず、国際免許証の表紙に「1949年ジュネーブ交通条約」と明記されています。ドイツ、フランス、スイス、イタリア、ベルギー、台湾の免許証所持者はJAFで免許証の翻訳が必要になります。その翻訳したものと免許証を同時に所持することでジュネーブ条約下で発行された国際免許証と同じ効力を持ちます。以上の免許証以外を所持している方は「外免切替」が必要になります。

外免切替の詳細に関しては、以下のウェブサイトをご覧ください：

<http://www.jaf.or.jp/e/switch.htm>

詳細については第7章をご覧ください。

目次

1 はじめに／歓迎の挨拶	4	12.2 電話	22
1.1 大会組織委員長より挨拶	4	12.3 運転及び運転免許証	23
1.2 大会概要	5	12.4 銀行/クレジットカード/現金	23
1.3 十勝地方について	6	12.5 帯広へのアクセス	24
2 オーガナイザーの連絡先	7	12.6 緊急時のサービス	25
2.1 大会事務局	7	12.7 ビジネスディレクトリー.....	26
2.2 ラリーHQ	7	13 トラッキングシステム	30
2.3 メディア事務局	7	14 ETC	32
2.4 主要競技役員	8	付則	33
3 プログラムと期日	9	付則 A：アイテナリー	34
3.1 大会開始前のスケジュール	9	A.1 アイテナリー	34
3.2 大会期間中のスケジュール	9	A.2 過去のアイテナリーとの比較	36
4 エントリー	11	A.3 レッキスケジュール	37
4.1 FIAタイトル.....	11	付則 B：マップ	38
4.2 エントリー受理基準.....	11	B.1 ルートマップ- Leg1及び2	38
4.3 エントリーフィー.....	11	B.2 帯広市地図	39
4.4 エントリーパッケージ.....	12	付則 C：図面とレイアウト	41
4.5 パスおよび書類の追加注文	12	C.1 北愛国サービスパークレイアウト.....	41
5 サービスパーク	13	C.2 陸別リモートサービスレイアウト.....	42
5.1 サービスパークについて	13	付則 D：各種フォーム	43
5.2 サービスパークのゴミについて.....	13	D.1 宿泊予約申込書	43
6 無線	13	D.2 エントリーブックレット.....	44
6.1 申請の手順	13	D.3 無線局緒元調書	49
7 車両と部品の日本への持ち込みと運転免許	14		
7.1 日本の法律／通関手続き	14		
7.2 車両に関わる規制	14		
7.3 日本国内を運転する際の条件	15		
7.4 交通法規の違い	16		
8 ヘリコプター	18		
8.1 登録申請手続き	18		
9 ホスピタリティー	18		
9.1 ホスピタリティー担当者.....	18		
10 ホテル／宿泊施設	19		
10.1 予約に関するお問合せ	19		
11 メディア	20		
11.1 メディアの連絡先と担当者	20		
11.2 メディア申請の手順と締切り	20		
12 総合案内	21		
12.1 概要	21		

1 はじめに～歓迎の挨拶／大会概要

1.1 大会組織委員長より挨拶

ラリーファンの皆様、参加者の皆様、関係者の皆様、ラリー北海道へようこそ。

2014年FIAアジア・パシフィックラリー選手権第5戦およびJAF全日本ラリー選手権第7戦として「ラリー北海道」を今年もここ北海道・十勝で開催いたします。

「ラリー北海道」は2002年の初開催から一貫して十勝地域を拠点とし、今年で13回目を迎え十勝地域に定着した国際ラリーイベントとなりました。昨年は併催イベントの「とちほ北海道満腹フェスティバル」などとも相まって67,990人の方にご来場いただきました。ありがとうございます。今大会も地域の方々のご支援をいただきながら、万全の体制を整えまして皆様をお迎えいたします。どうぞご期待下さい。



サービスパークは、例年と同じく帯広市の北愛国交流広場に設置いたします。HQも昨年同様、国内最大級の室内アイススケート場「明治北海道十勝オーバル」に隣接する管理棟に設置いたします。

競技は金曜日夕方に北愛国サービスパークで行われるセレモニアルスタートから始まり、そしてサービスパークに隣接した札内川河川敷で行われるSS1「SSS SATSUNAI River」をLEG1Aとして行います。そして土曜日(LEG1B)から本格的な競技が始まります。この日は陸別町を中心としたコースレイアウトで、29kmあるロングステージ「SHOTOSHIBETSU」を筆頭に、毎年好評な「RIKUBETSU LONG」ステージと「NUPRIPAKE」ステージ、そしてこちらも好評な「PAWSE KAMUY」ステージの4つのSSを核として進んでいきます。ラリーカーは夕方に帯広へ戻り、「SSS SATSUNAI River」がこの日の最終競技になります。

最終日である日曜日(LEG2)は音更、足寄、本別のエリアが中心となります。今年は昨年同様「OTOFUKE」「HONBETSU」の両ステージをリバースで使用、そして本大会一番のロングステージ「ASHORO LONG」を走り、最後はやはり帯広に戻り「SSS SATSUNAI River」を走ってフィニッシュとなります(予定)。

参加者やラリーファンのみならず全ての皆様を楽しめる様に「ラリー北海道」を作っていきます。どうぞご期待下さい。

最後になりましたが、これまで私達は「モータースポーツの楽しさ・走ることの楽しさ」をコンセプトとしたイベントづくりを追及してまいりました。今般は、日本国内にもあらゆる面で明るい兆しが見えて来ております。自動車業界もまたスポーツカーへのアピールをはじめ、モータースポーツを取り囲む環境にも光が見えてきました。この機を逃さず、今後におきましても一層の努力をもってモータースポーツの発展に寄与してまいります。何卒今後とも「ラリー北海道」をよろしく願い申し上げます。

ラリー北海道大会組織委員長

田畑邦博

1.2 大会概要 (ラリー北海道概史)

日本でFIAアジア・パシフィックラリー選手権が開催されるのは、初開催の2002年から今年で13回目になります。2003年には世界ラリー選手権(WRC)候補イベントとして、また2004年にはラリー・ジャパンと併催して開催されました。2005年よりラリー・ジャパンから再び独立してラリー北海道の名称となり、JAF全日本ラリー選手権を併催する国内唯一の国際ラリー大会として開催を続けています。

このラリーは2014年9月26日から28日に開催されます。9月下旬の天候は初秋の気候で平均降水量は若干多くなります。9月下旬の平均気温は約14℃です。また、この季節の日の出時刻は午前5時13分頃、日照時間は日の出からおおよそ12時間あります。

アイテナリーは、十勝地方のおなじみの大地を網羅しています。今年のギャラリーステージは、土曜日に“RIKUBETSU LONG”と“PAWSE KAMUY”、日曜日に“HONBETSU Reverse”と“OTOFUKE Reverse”が盛り込まれています。また、金・土・日それぞれの最後はサービスパーク隣りで“SSS SATSUNAI River”が行われます。

ラリーHQ及びメディアセンターは昨年同様に、帯広市の明治北海道十勝オーバルに隣接した管理棟に設置します。サービスパークは今年も世界ラリー選手権(WRC)ラリージャパンで使用されていた北愛国交流広場に設定します。また、昨年同様、Leg1で使用されるRIKUBETSUではリモートサービスを行います。

この大会歴代勝者は以下の通りです。

2013 Winner					
D river	Gaurav GILL (IND)				
C o-driver	Glenn MACNEALL (NZL)				
E ntrant	Team MRF (AUS)				
V ehicle	Skoda Fabia S2000				




Year	Entrant	Driver	Co-driver	Vehicle	Gp/Cl
2012	Team Arai (J)	Toshihiro ARAI (J)	Dale Jay MOSCATT (AUS)	Subaru Impreza WRX STi 4Door	R4
2011	Subaru Team Arai (J)	Toshihiro ARAI (J)	Mcloughlin ANTHONY (AUS)	Subaru Impreza WRX STi	R4
2010	Subaru Team Arai (J)	Toshihiro ARAI (J)	Daniel BARRITT (GB)	Subaru Impreza WRX STi	N4
2009	Motor Image Rally Team (SGP)	Cody CROCKER (AUS)	Ben ATKINSON (AUS)	Subaru Impreza WRX STi	N4
2008	Subaru Team Arai (J)	Toshihiro ARAI (J)	Glenn MACNEALL (NZ)	Subaru Impreza WRX STi	N4
2007	Motor Image Rally Team (SGP)	Cody CROCKER (AUS)	Ben ATKINSON (AUS)	Subaru Impreza WRX STi	N4
2006	Subaru Rally Team Japan (J)	Toshihiro ARAI (J)	Tony SIRCOMBE (NZ)	Subaru Impreza WRX STi	N4
2005	MRF Tyres (IND)	Katsu TAGUCHI (J)	Mark STACEY (AUS)	Mitsubishi Lancer Evo VIII	N4
2004	Team Proton Pert Malaysia (MAL)	Karamjit SINGH (MAL)	Allen OH (MAL)	Proton PERT	N4
2003	Subaru Production Rally Team (J)	Toshihiro ARAI (J)	Tony SIRCOMBE (NZ)	Subaru Impreza	N4
2002	Subaru Australia (AUS)	Possum BOURNE (NZ)	Mark STACEY (AUS)	Subaru Impreza	A8

1.3 十勝地方について

北海道は日本列島の最北に位置し、人口は約560万人です。人口密度は67人/km²であり、全国平均の342人/km²や東京都の5629人/km²と比べて、あまり人口が密な地域ではありません。また、多くの森林、山々、農業地帯が広がる豊かな地域です。

北海道は、イタリアの北方やフランスとほぼ同緯度に位置しています。しかし、南太平洋海流の影響を受けるため、冬には長期にわたり寒さが厳しくなります。日本は夏に台風の影響を多く受けますが、北海道はもっともその影響を受けることが少ない地域です。

十勝の田園風景は、アメリカ合衆国北部の州に似通ったところがあり、また、ラリー北海道のスペシャルステージをウェールズのステージに例える人々もいます。土地は比較的起伏が少なく、多くは農業に使用されています。山脈が南北に走り、北海道を東と西に分けています。北海道の中央部から西にも山脈があり、これら二つの山脈により、十勝地方の天候は比較的安定しています。ラリーで使用するコースの多くは十勝平野にあり、そのうちの何本かは山脈の麓にあります。山地ではありません。

北海道は、比較的新しい地域で、約200年前に本州から渡ってきた人により開拓されました。開拓以前は、この地区にはシベリアからカムチャッカ半島を下って来たアイヌと呼ばれる先住民のみが居住していました。その影響で北海道の多くの地名の語源はアイヌ語であり、ラリー北海道のステージ名の一部はアイヌ語を基に決定されました。

サービスパークが設置される帯広市は人口約17万人の都市です。帯広市は十勝地方の商業中心都市であり、町並みは近代的で、ホテルやレストランも数多くあります。道路は整備され、日本語・英語で書かれた標識がついています。中心地点からの方角と距離によって道路に名称がつけられており、例えば人気のあるレストラン「十勝ビール」の住所は、西1条南9丁目6となっています。

十勝の人々はモータースポーツが大好きです。この地域では2001年から国際ラリーが開催され、2004年から2007年まで4年間、WRCが開催されました。そのため地元の人々は日本で最もラリーを理解し、支援、協力する人々でもあります。

帯広市の地図は付則Bでご覧ください。

2 オーガナイザーの連絡先

2.1 大会事務局, 電子メール& ウェブサイト

ラリー北海道大会事務局 〒003-0022 北海道札幌市白石区南郷通19丁目南4-9 邦明商事内	Fax: 011-864-1182 Tel: 011-864-2003 Eメール: info@rally-hokkaido.com ウェブサイト: www.rally-hokkaido.com
---	---

2.2 ラリーHQ

ラリーHQとメディアセンターは2009年に完成した十勝オーバルスケートリンクに隣接しており、様々な目的に使用され、2010年に開催された「世界スプリントスピードスケート選手権大会」では、メディアセンターとして使用されました。

メインサービsparkは愛国町の北愛国交流広場に、リモートサービスエリアは陸別町の陸別サーキットに隣接されます。北愛国サービspark、陸別リモートサービス及びHQの位置については付則Bの地図をご参照ください。



Rally HQ

2.3 メディア事務局

メディアオフィサー:	河野 功
住所:	ラリー北海道大会事務局 メディア 〒003-0022 北海道札幌市白石区南郷通19丁目南4-9 邦明ビル
Tel:	011-864-2003
Fax:	011-864-1182
Eメール:	media@rally-hokkaido.com
Web:	www.rally-hokkaido.com

メディアに関する詳細につきましては、セクション11をご参照ください。

2.4 主要競技役員

	<p>田畑 邦博 大会組織委員会委員長 tabata-p@rally-hokkaido.com 011-864-2003 言語:日本語</p>		<p>横田 龍史 競技長 makita@rally-hokkaido.com 090-3117-4789 言語:日本語</p>
	<p>Mr. Dmitry (Dima) KRIVTSOV 副競技長 dima@rally-hokkaido.com 090-2077-6302 言語:ロシア語、英語、日本語</p>		<p>米澤 章 救急委員長 yonezawa@rally-hokkaido.com 090-3110-0896 言語:日本語</p>
	<p>石川 和男 技術委員長 scrutineer@rally-hokkaido.com 090-3111-9306 言語:日本語</p>		<p>河野 功 メディアオフィサー media@rally-hokkaido.com 011-864-2003 言語:日本語、英語</p>
	<p>Mr. Peter MACNEALL コンペティターリレーションオフィサー info@rally-hokkaido.com(Attn: Peter Mac) 011-864-2003 言語:英語</p>		<p>小寺 俊策 コンペティターリレーションオフィサー cro@rally-hokkaido.com 090-6921-9881 言語:日本語、英語</p>
	<p>野田 健 医師団長 info@rally-hokkaido.com 011-864-2003 言語:日本語</p>		<p>中田 省吾 競技長補佐(コース) nakata@rally-hokkaido.com 090-1527-6926 言語:日本語</p>
	<p>永井 真 競技長補佐(リザルト) nagai@rally-hokkaido.com 090-3119-8487 言語:日本語、英語</p>		<p>酒井 紀之 サービスパークコーディネーター info@rally-hokkaido.com 011-864-2003 言語:日本語</p>
	<p>山田 堅一 リグループコーディネーター info@rally-hokkaido.com 011-864-2003 言語:日本語</p>		<p>大橋 登美雄 事務局長 info@rally-hokkaido.com 090-3117-3671 言語:日本語</p>
	<p>新井野 美恵子 イベントセクレタリー niino@rally-hokkaido.com 011-864-2003 言語:日本語、英語</p>		<p>三上 清春 イベントセクレタリー mikami@homei-gr.com 090-3112-2095 言語:日本語</p>
	<p>小池 治郎 イベントセクレタリー koike@homei-gr.com 090-7510-5117 言語:日本語</p>		<p>田畑 弘美 イベントセクレタリー hiromi@homei-gr.com 011-864-2003 言語:日本語</p>

3 プログラムと期日

3.1 大会開始前のスケジュール

7月5日 土曜日		
10時00分	特別規則書の発行	大会事務局
8月8日 金曜日		
10時00分	エントリー受付開始	大会事務局
10時00分	メディア登録申請開始	大会事務局
9月5日 金曜日		
10時00分	ラリーガイド2の発行	大会事務局
18時00分	備品およびバスの追加注文締切	大会事務局
18時00分	エントリー締切	大会事務局
18時00分	コ・ドライバーの詳細の登録締切	大会事務局
18時00分	フレキシサービス登録締切	大会事務局
18時00分	ヘリコプター登録締切	大会事務局
9月11日 木曜日		
18時00分	ポンプ燃料発注締切日	大会事務局
18時00分	メディア登録申請締切	大会事務局
9月18日 木曜日		
10時00分	シードエントリーリストの発行	www.rally-hokkaido.com
18時00分	サービスパークレイアウトおよびサービススペースの公示	大会事務局
9月21日 日曜日		
10時00分	ロードブックおよびルートマップの発行	大会事務局

3.2 大会期間中のスケジュール

9月22日 月曜日		
09時00分	各チームへのサービスパークオープンおよびコンテナ搬入	北愛国サービスパーク
9月24日 水曜日		
09時00分	ラリーHQ開設	十勝オーバル管理棟
09時00分-19時00分	ラリーHQ開設時間	ラリーHQ
09時00分-	公式掲示板	ラリーHQ
09時00分-	車検スケジュールの公示	公式掲示板
13時00分-19時00分	参加確認、サービス受付及びレッキ受付	ラリーHQ
13時00分-19時00分	メディアセンター開設時間	メディアセンター
13時00分-	メディア受付開始	メディアセンター
9月25日 木曜日		
08時00分-19時00分	ラリーHQ開設時間	ラリーHQ
08時00分-19時00分	メディアセンター開設時間	メディアセンター
09時00分-18時00分	レッキ	レッキスケジュール参照
08時30分-19時00分	車検・マーキングおよびシーリング	スーパーピット中央店
9月26日 金曜日		
06時30分-22時00分	ラリーHQ開設時間	ラリーHQ
06時30分-22時00分	メディアセンター開設時間	メディアセンター

07時00分-12時00分	レッキ	レッキスケジュール参照
08時30分-12時30分	車検・マーキングおよびシーリング	スーパーピット中央店
12時00分-13時00分	シェイクダウン	SATSUNAI River SSS
13時30分-	第1回大会審査委員会	審査委員会室
14時30分-	プレメディアコンファレンス	メディアセンター
15時00分-	Leg 1スタートリストの公示	公式掲示板
15時45分	ラリーショー	北愛国サービスパーク
16時45分	セレモニアルスタート	北愛国サービスパーク
17時37分	Leg 1Aスタート	北愛国サービスパーク

9月27日 土曜日

04時30分-22時00分	ラリーHQ開設時間	ラリーHQ
04時30分-22時00分	メディアセンター開設時間	メディアセンター
05時00分	Leg 1Bスタート	北愛国サービスパーク
21時00分	Leg 2スタートリストの公示	公式掲示板

9月28日 日曜日

05時30分-21時00分	ラリーHQ開設時間	ラリーHQ
05時30分-21時00分	メディアセンター開設時間	メディアセンター
06時00分	Leg 2スタート	北愛国サービスパーク
17時23分	暫定表彰式	北愛国サービスパーク
18時00分	再車検	スーパーピット中央店
18時30分	ファイナルメディアコンファレンス	北愛国サービスパーク
20時30分	暫定結果公示	公式掲示板

9月29日 月曜日

09時00分-12時00分	ラリーHQ開設時間	ラリーHQ
09時00分-12時00分	メディアセンター開設時間	メディアセンター
10時00分	リザルトCD発行	ラリーHQ
12時00分	ラリーHQ、メディアセンター閉設	ラリーHQ

4 エントリー

4.1 FIAタイトル

- 2014 FIA Asia-Pacific Rally Championship for Drivers and Co-Drivers (Round 5)
- 2014 FIA Asia-Pacific Rally Production Cup for Drivers and Co-Drivers (Round 5)
- 2014 FIA Asia-Pacific Rally Cup for Manufacturers (Round 5)
- 2014 FIA Asia-Pacific Rally Junior Cup (Round 4)
- 2014 FIA Asia-Pacific 2WD Rally Cup for Drivers, Co-Drivers and Manufacturers (Round 5)
- 2014 FIA Asia Rally Cup for Drivers and Co-Drivers (Round 2)

4.1.1 APRCタイトル

- 2014 Team Trophy (Round 5)

4.1.2 JAFタイトル

- 2014 全日本ラリー選手権

4.2 エントリー受理基準

APRC及びアジアカップ参加選手としてラリー北海道にエントリーするためには、エントラント、ドライバーおよびコ・ドライバーは、それぞれ必要な国際競技ライセンスを所持していなければなりません。海外で発給されたライセンスの保持者は、その国のASNからの許可証を受け取るか、エントリーフォームに確認印を得なければなりません。

APRCと全日本ラリー選手権のエントリーの上限は、合計で90台です。それ以上のエントリーがあった場合、オーガナイザーが選考の権利を有します。APRC及びアジアカップ登録選手はエントリーが保証されます。

ドライバーと参加者が同一であっても、「競技運転者ライセンス」の他に、「参加者ライセンス」が必要になります。

4.3 エントリーフィー (エントリーフィーの支払方法)

アジア・パシフィックラリー選手権及びアジアカップ(ジュニアカップを除く)

オーガナイザーによって提示された任意の広告をつけた場合	280,000円
オーガナイザーによって提示された任意の広告無しの場合	380,000円

アジア・パシフィックラリー ジュニアカップ

オーガナイザーによって提示された任意の広告をつけた場合	260,000円
オーガナイザーによって提示された任意の広告無しの場合	360,000円

全日本ラリー選手権	260,000円
全日本ラリー選手権外オープンクラス	210,000円

エントリーフィーにはトラッキングシステムレンタル料金が含まれています。なお、アンテナキットが必要な方は別途エントリーブックレット(付則:D2)よりお申し込み下さい。トラッキングシステム以外にエントリーフィーに含まれる内容はエントリーパッケージ(次ページ)をご覧ください。

燃料代金に関して:主催者燃料を使用するチーム(FIA燃料を使用しない全てのチーム)の燃料代金の支払方法は本年より銀行振込のみとさせていただきます。燃料単価はエントリー開始時に燃料注文書にて発表致します。

エントリーフィーおよびその他の登録料は、以下の銀行口座にお振込みください。

銀行名:	北海道銀行	口座名義:	ラリー北海道大会組織委員会
支店名:	流通センター前	口座番号:	1064661
Swift Code:	HKDBJPJT		

4.4 エントリーパッケージ

エントリーフィーには下表の内容が含まれます。

Item	APRC and/or Asia Cup resistered competitors	Other APRC or Asia Cup competitors	JRC competitors
Accommodation 2 days (Fri,Sat) / 宿泊2泊(金・土)	2	2	—
Accommodation 1 days (Sat) / 宿泊1泊(土)	—	—	2
Rally Guide 1 / ラリーガイド1	Download from website	Download from website	Download from website
Supplementary Regulations / 特別規則書	Download from website	Download from website	Download from website
Rally Guide 2 / ラリーガイド2	Download from website	Download from website	Download from website
Road Books / ロードブック	2	1	1
Route Map / ルートマップ	2	1	1
Official Programme / 公式プログラム	4	1	1
Results CD / リザルトCD	1	1	1
Competitor credential passes / 競技者パス	2	2	2
Service credential passes / サービスクルーパス	8	4	4
Guest credential passes / ゲストパス	4	—	—
Service vehicle passes / サービス車両通行証	2	2	2
Auxiliary vehicle passes / 補助車両通行証	1	—	—
Service space (Kita Aikoku Service Park) / サービスパークスペース (北愛国サービスパーク)	15x10m	7.5x5m	7.5x5m

4.5 パスおよび書類の追加注文

追加のパスおよび書類は、エントリーブックレット(付則:D2)を使用してご注文ください。

5 サービスパーク

5.1 サービスパークについて

サービスパークは2箇所、帯広市愛国町の北愛国交流広場及び陸別町の陸別サーキット隣接エリアに設置されます。

北愛国サービスパークの路面はグラベル及びターマック、陸別リモートサービスはグラベルです。

北愛国サービスパークの開設は9月22日(月)9時00分です。管理は9月25日(木)から行います。

参加者は、サービス車両またはAuxiliary Vehicles(補助車両)に限り、北愛国サービスパークの指定エリア内に駐車することができます。それ以外の車両は、サービスパークに隣接している駐車場に駐車しなければなりません。1参加者につき2枚のサービス車両プレートが支給されます。追加の補助車両用プレートは10,000円で注文することができます。

APRC、アジアカップおよび全日本ラリー選手権に参加するクルー全員がフレキシサービスを受けることができます。フレキシサービスを希望する場合は、エントリーブックレット(付則D)のセクションB.3にご記入の上9月5日(金)までに競技会事務局までお申込みください。

5.2 サービスパークのゴミについて

北愛国サービスパークにはゴミ箱は設置していませんので基本的にゴミは全てお持ち帰り下さい。

ただし、エントリーフォームに記載されている特大ゴミ箱を注文された場合は除きます。この特大ゴミ箱は産業廃棄物用です。燃やすゴミや燃やさないゴミなどは下記のごみ袋に分別して下さい。

また、どうしても持ち帰れないゴミに関しては専用ごみ袋を購入していただき、これに入れた”分別された”ゴミに関しては月曜日の午後に各チームのサービススペース位置にて回収致します。このゴミ袋はエントリーフォームより購入出来ます。これ以外のゴミはいっさい回収致しません。また、専用ごみ袋を使用しても、分別がなされていないと分別料を別途頂きます。分別の種類に関しては専用ごみ袋購入時に分別リストを一緒にお渡しします。

陸別リモートサービスにもゴミ箱はありません。ここで出たゴミは例外無く全てお持ち帰り下さい。

6 無線

6.1 申請の手順

日本での無線の使用は、厳しく規制されています。無線装置の使用を希望する方は、遅くとも大会3ヶ月前までに、当該装置の使用周波数、型番およびトランスミッション出力等の必要事項を詳細に付則Dのエントリーブックレットにある該当セクションに記入し、大会事務局までお知らせください。また、無線装置の周波数、トランスミッション出力によっては日本では使用できないものがあります。

担当者: 米澤 章
Tel: 011-864-2003
Fax: 011-864-1182
Email: yonezawa@rally-hokkaido.com

7 車両と部品の日本への持ち込みと運転に必要な手続き

7.1 日本の法律/通関手続き

日本国内での輸送にはかなりの費用がかかりますので、開催場所から最も近い苫小牧港まで海上輸送を利用することをおすすめします。海外からの持ち込み品については税関手続きが必要になります。苫小牧港からサービスパークまでのコンテナ輸送には、約3時間かかります。

通関手続きに必要な書類と注意点などは下記の通り；

(1) FIAカルネ

FIAカルネはラリーカー、レッキ車両、サービス車両などの海外で登録された車両が日本国内を走行する時に必ず必要になります。このカルネは当該車両登録国のASNから発行されます。なお、FIAカルネで通関をする際には、JAFが発行するカルネの証明書が必要になります。この証明書の取得については、オーガナイザーにお問合せ下さい。なお、カルネとこの証明書は、当該車両を使用中に警察などから提示を求められる場合があります。いつでも提示できるよう用意しておいて下さい。また、当該車両の登録国を問わず、公道を走る全ての車両は自賠責保険に加入してはなりません。

注意：ジュネーブ条約（ジュネーブで1949年に締結された「道路交通に関する条約」）国以外の国から車両を輸入する場合は、例えFIAカルネを取得していても、日本に到着した時点で車検、及び日本国内での登録が必要になります。この車検と登録には時間と費用がかかります。

* カルネ名義人以外の方が当該車両を使用する場合は、前もって日本での通関時に所定の申請書による届出が必要です。

(2) ATAカルネ

ATAカルネは機材、部品、タイヤ、及び販促アイテムを持ち込む時、必要になります。ATAカルネで輸入された全ての品目はラリー後再輸出される必要があります。禁制品は例え一時的であっても輸入することは出来ません。

(3) PRO FORMA INVOICE

PRO FORMA INVOICEの使用に関しては、オーガナイザーもしくは個々の輸送会社にお尋ね下さい。

高圧ガスシリンダーなどの危険物や医療品の輸入に必要な特別認可を受ける際に、上記の書類提出が求められます。これらの輸入に関しては、各自で手続きをする必要があります。

車両及びその他の機材を輸入する方は、下記にありますラリー北海道オフィシャルフォワードールにお尋ね下さい。

株式会社栗林商会 苫小牧支社
053-0005 苫小牧市元中野町2丁目13-16
Tel: 0144-32-5161
担当者/メールアドレス

Fax: 0144-36-6839
河野 純吾: kouno@kurinet.co.jp
小林 克之: kat-kobayashi@kurinet.co.jp

7.2 車両に係る規制

ラリー北海道に参加する車両は、道路運送車両法・道路交通法など日本の国内法規を遵守しなければならず、国際モータースポーツ競技規則付則J項あるいはJAF国内競技車両規則（ライトポット、排気音量、etc）に合致していなければなりません。

日本で登録されていない車両は、以下の (a) (b) の書類が必要であり、車両に搭載しておかなければなりません。

(c) は競技車両用にお薦めします。

- (a) JAFから発行され、オーガナイザーから配布されたカルネの証明書類(翻訳されたもの)。この書類は車両の一時輸入を許可する効力があります。ラリーカーに関しては、エントリーフィーに含まれていますが、ラリーカー以外の車両に関しては、手数料がかかります。
- (b) 自賠責保険の加入。ラリーカーに関しては、エントリーフィーに含まれています。ラリーカー以外の日本で登録されていない車両に関しては、約6,500円で加入することができます。
- (c) ラリー保険。ラリーカーやレッキカーに対しこの保険をかけることをお奨めします。この保険には第三者賠償責任保険も含まれ、保険料はエンジンの大きさによりますが、約20,000円です。

当ガイド付則Dのエントリーブックレットに、車両の輸入に関するセクションがあります。上記の(b)と(c)の加入に関しては、車両について詳細をご記入ください。

7.3 日本国内を運転する際の条件

海外から入国する者が日本国内で運転する為には日本の運転免許証、もしくは公道を運転するのに有効な国際免許証を所持しなくてはなりません。国際運転免許証は1949年に締結されたジュネーブ条約下で発行されたもののみが有効で、免許証の表紙にその事が明記されていなくてはなりません。詳細に関してはオーガナイザーにお問合せ下さい。

ドイツ、フランス、スイス、イタリア、ベルギー及び台湾で発行された免許証を所持している者はJAFによる翻訳が必要になります。この翻訳と免許証を同時に携帯することで、ジュネーブ条約下で発行された国際運転免許証と同じ効力を持ちます。上記以外の免許証を所持している者は、実技試験を受けるかもしくは外免切替を求められます。

外免切替の詳細についてはこちらのウェブサイトをご覧ください。

英語：<http://www.jaf.or.jp/e/switch.htm>

日本語：<http://www.jaf.or.jp/inter/translation/index.htm>

7.4 交通法規の違い

<日本語版では省略します>

Rally 26-28 Sep. 2014 **Hokkaido**

